

新興国レポート

トルコインフレ率 15年ぶりの高水準に

次回会合にて追加利上げか

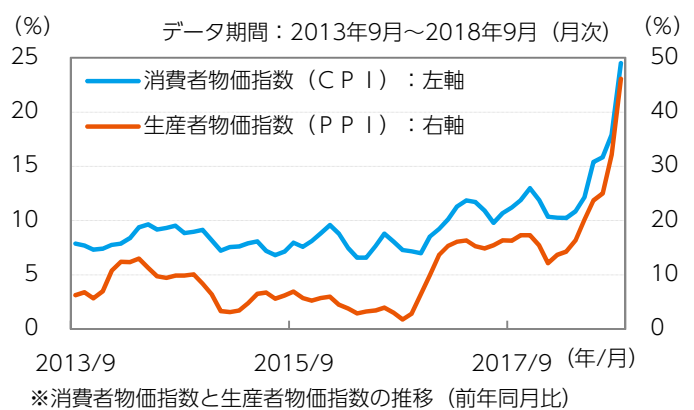
- ▶ トルコ統計局が公表した9月のC P Iは前年同月比で24.5%の上昇となった。
- ▶ 同日に公表されたP P Iも8月から急加速となる。企業はエネルギー高と原材料高に直面している。
- ▶ トルコ中央銀行は次回会合での追加利上げに踏み切ることができるかの判断を迫られるか。

トルコ統計局が10月3日に公表した9月の消費者物価指数（C P I）は、前年同月比で24.5%の上昇となりました（図表1）。2ケタの伸びは14ヵ月連続となっており、およそ15年ぶりの高水準に達しました。米国人牧師の長期拘束問題に端を発したトルコリラ急落が影響し（図表2）、家具・家庭用品や交通、食品などあらゆる分野の物価が上昇しました。今後も物価上昇が継続した場合、さらなる投資や消費の落ち込みが予想され、実態経済への悪影響が鮮明になってくるものとみられます。また、中央銀行に対し、いっそう利上げ圧力が高まりそうです（図表3）。

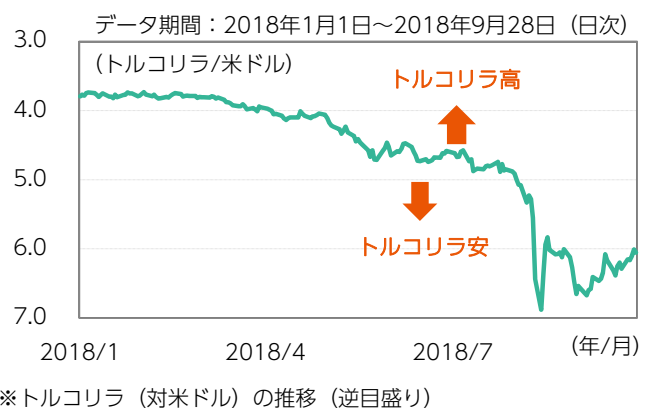
9月の生産者物価指数（P P I）も同日に発表されました。前年同月比46.2%と、8月の32.1%から上昇率が急加速し、約16年ぶりの強い伸びを示しました（図表1）。企業は、エネルギー価格の上昇に加え、原材料価格の上昇にも直面しています。P P I上昇率の加速はインフレ圧力の増大を示唆しているとみられ、C P I上昇率は今後一段と加速する可能性があります。

トルコ中央銀行は、9月の金融政策決定会合において主要な政策金利を6.25%引き上げ、年24.0%としたばかりです（図表3）。市場では、インフレ抑制と通貨防衛のために今月25日の次回会合で追加利上げを行う必要があるとの指摘があるものの、中央銀行は金融引き締めを嫌うエルドアン大統領の下で追加利上げに踏み切ることができるかの判断を迫られることになりそうです。

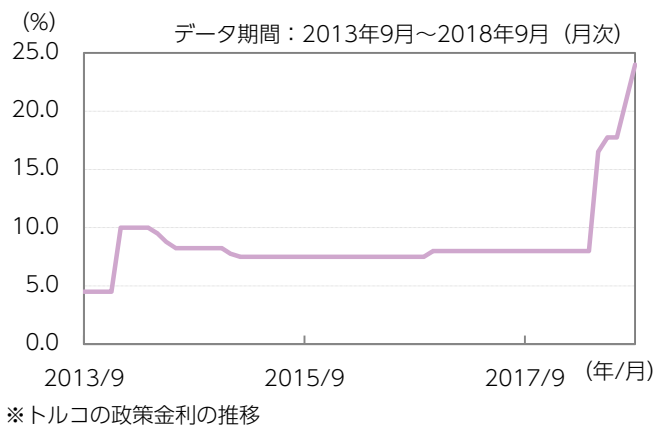
図表1：消費者物価と生産者物価は急上昇



図表2：8月には対米ドルでトルコリラが急落



図表3：9月に政策金利を24.0%としたばかり



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>